

新冠にまつわるお話しを集めた 新冠百話

第四十四話

「新冠御料牧場」

新冠における馬文化の発祥」(要約文)

新冠町は、「競走馬のふるさと」として全国の競馬ファンから注目されています。いつの時代から人と馬の文化が根付いたかというところ、その歴史は明治五年まで遡ります。開拓使長官の黒田清隆は、新冠郡を中心とする約七万ヘクタールの広大な土地を牧場として開設することに決定しました。野生で生きていた馬二二六頭をこの牧場内に集め、大規模に放牧しました。外国産馬も導入し、品種改良を施して農耕馬や軍馬へと育てました。当初、牧場の本部となる場所は、現在の新冠町字朝日付近にありました。明治十年になると牧場面積を縮小し、本部を静内郡に移すなどの経営改革が図られ、新冠郡に属する地を旧牧場、静内郡に属する地を新牧場としました。この頃はエゾオオカミが馬を襲う被害が牧場内で発生したため、全面的にオオカミを駆除しています。その後、開拓使の廃止に伴い、明治二十一年に宮内省の所管となり、「新冠御料牧場」という名称で呼ばれるようになります。以来、農耕馬や軍馬の他、物資搬送の馬、さらに皇室に関連する帝室御用馬の生産や改良という重要な役割を担う地とな

りました。

戦後、新冠区域内の御料牧場の土地は全面的に解放され、たくさんの開拓者が入植しました。本部がある静内二十軒道路付近は、昭和二十四年に馬の生産を廃止して牛専門の品種改良生産牧場へと転換され、現在は「独立行政法人家畜改良センター新冠牧場」として今日に至ります。今も静内にありながら「新冠牧場」の名が付くのは、最初の牧場中心地が新冠であるとともに、広大な敷地を有していた名残によるものです。

現在、新冠町郷土資料館では御料牧場時代の牧柵を再現し、資料館の前庭に設置してふるさとの懐かしい風景を後世に伝えています。この牧柵を愛称で「万里のチャシ」と名付けています。牧柵製作をしている郷土文化研究会の皆さんが考えた呼び名です。御料牧場時代、牧柵(アイヌ語でチャシ)が中国の万里の長城のごとく延々と続いていたことに由来しています。今ではほとんど見ることができなくなった懐かしい牧柵の形です。ぜひご覧になっていただきたいと思えます。



御料牧場時代の牧柵を再現した「万里のチャシ」新冠郷土文化研究会の皆さんが製作しました。

大切な「日常」のために私たちができること。【消防団員募集】

あなたの想いで、守れる街がある。

あなたの想いで、救える命がある。

あなたの想いで、深まる絆がある。

消防署新冠支署

火災・救急出動状況 () かつこ内は前年同期			
区分	火災件数	救急件数	
3月	0件 (0件)	28件 (32件)	
4年1~3月	2件 (0件)	82件 (77件)	
交通事故発生状況 () かつこ内は前年同期			
区分	発生件数	死者	傷者
3月	0件 (1件)	0人 (0人)	0人 (1人)
4年1~3月	1件 (3件)	0人 (1人)	2人 (2人)

人の
うごき

(令和4年3月末現在)

人口 5,178人 (前月比 - 47人)
男 2,539人 (前月比 - 21人)
女 2,639人 (前月比 - 26人)
世帯 2,738世帯 (前月比 + 5世帯)

町公式ホームページ

町公式フェイスブック

